主な記事
1　第5旅団第1次訓練検閲
2　浜大樹揚陸訓練支援
3　旅団レンジャー集合教育
4　第27次派遣要員活動状況
5　別海協力会創設30周年記念行事

ひがし北海道だより

陸上自衛隊
第5旅団広報紙
発行所
第５旅団司令部
総務課　広報班

第65号（1）
2009．7

平成21年度第5旅団第1次訓練検閲

～第27普通科連隊、第5後方支援隊、第5高射特科中隊、第5施設中隊～

「戦い方をしっかりと設計せよ」、「現地で設計をしっかりと修正せよ」、「基礎的戦闘動作を確行せよ」

第五旅団は、平成二十一年六月二十日（土）～二十三日（火）の間、然別演習場及び同周辺において第一次訓練検閲を実施した。

本訓練検閲は、第二十七普通科連隊、第五後方支援隊、第五高射特科中隊及び第五施設中隊の訓練検閲を実施して、その練度を評価し、進歩・向上を促すことを目的として、統裁官　市田旅団長以下、統裁部、旅団司令部、隷下部隊の総勢約一，三〇〇名が参加した。検閲の開始にあたり、統裁官は「戦い方をしっかりと設計せよ」「現地で設計をしっかりと修正せよ」「基礎的戦闘動作を確行せよ」の三点を要望、六月二十日一一〇〇状況が開始され、降りしきる雨の中、連続状況下の防御準備（三日）及び防御戦闘、これに伴う様々な状況付与に対して受閲部隊が真剣に取り組み、正に統裁官と受閲部隊の真剣勝負が繰り広げられ、六月二十三日、所望の成果を得て終了した。

前方からの敵兵を確認する27普連01ATM手

迅速に対空戦闘準備に入る第5高射特科中隊短SAM小隊

受閲部隊に訓示する統裁官

通路閉塞の準備を行なう第5施設中隊

患者を救護する第5後方支援隊衛生隊　衛生陸曹

ゴラン高原派遣輸送隊(第27次要員)活動状況

ゴラン高原派遣輸送隊（第２７次要員）の活動も残り約２ヶ月となり、派遣期間も後半に差し掛かった。
業務も佳境に入った高木隊長以下４３名は、残りわずかとなった派遣期間に対するそれぞれの思いを胸に、整斉と任務を遂行している。

現地調達業務　右から会計後方幹部　追沼2尉、給養　伊藤1曹、炊事　冨永2海曹

ガス輸送の為、ガスボンベを卸下する　装輪操縦　松和3曹

ドーザ輸送(積載)作業中　右から施設機械操作　西館3曹、大良3曹

補給品の輸送準備をする装輪操縦　田中2曹

インド大隊長を表敬する第27次隊長　高木3佐(左から2番目)及び第28次隊長　小山3佐(右から2番目)

ポーランド大隊担任地域偵察　左から分遣班長平山1尉、第28次隊長小山3佐、第27次隊長高木3佐

平成二十一年度 旅団レンジャー集合教育

リペリング訓練

第五旅団は、第六普通科連隊長　照井一佐を訓練担任官に平成二十一年五月十八日から平成二十一年度旅団レンジャー集合教育を実施している。

訓練生は、約二ヶ月の基礎訓練で鍛えた体力・気力及び体得した地図判読、生存自活、水路・山地潜入などの技術を演習場において実践的に発揮し、さまざまな想定の下、レンジャー要員として認められることを目標に、如何なる困難な状況も克服出来るよう訓練に励んでいる。

訓練生十名は、七月二十四日最終想定を終了し、美幌駐屯地において駐屯地全隊員に出迎えられる。

水路潜入訓練

帯広地本　懸垂幕で自衛官募集をPR

帯広地方協力本部（本部長　成清一佐）は、帯広市と㈱藤丸百貨店の協力を得て、自衛官募集の理解と協力を呼びかける懸垂幕を設置した。

同懸垂幕は縦十八m、横一八m、白地に赤で「自衛官募集中」と書かれたもので、七月から八月末までの二ヶ月にわたり藤丸百貨店社屋に掲示される。

帯広市での自衛官募集懸垂幕設置は初の試みであり、七月四日（土）藤丸正面入口において、オープニングセレモニーが行われ、帯広市、藤丸百貨店、自衛隊協力団体等の関係者約一〇〇名が参加した。

セレモニーでは、成清本部長が「帯広市と地元百貨店のご協力により、このようなPRの場を頂けたのは大変喜ばしいことであり、地元の若者の夢と希望を叶える為、帯広地本部員が一丸となって努力していく。」と挨拶し、続いて来賓の皆さんによるテープカットが行われ、懸垂初日を祝った。

また、テープカットの際に第五音楽隊によるファンファーレ演奏が行なわれた。

藤丸デパートに飾られた懸垂幕

テープカットを行なう地本部長と来賓関係者

帯広　地本
QRコード

平成21年度第1次協同転地演習(浜大樹揚陸訓練)支援

第五旅団は、平成二十一年七月九日(木)～七月十日(金)までの間、平成二十一年度協同転地演習の一環として愛知県名古屋市に司令部を置く中部方面隊に所属する第十師団（師団長　千葉陸将）が実施する浜大樹揚陸訓練を支援した。

第五対舟艇対戦車中隊長　三品三佐が支援隊長となり、浜大樹揚陸支援隊を編成、七月一日から支援準備を開始し、訓練地域の警備、各種施設の設営、通信組織の構成・運営及び管理業務等広範多岐にわたる支援任務を完遂し、浜大樹揚陸訓練の成功に大きく貢献した。

また、訓練を報道機関等七社十四名と自衛隊協力諸団体・大樹町漁業協同組合等七十名に一般公開し、道民に同訓練の真姿を広報し、陸・海自衛隊（第五旅団）に対する理解を促進した。

第1波で上陸する14普連3中隊の軽装甲機動車

支援隊指揮所で警察の警備関係者と共に状況確認中の支援隊長　三品3佐（中央）

上陸後、普通科と調整する戦車長

自衛隊協力会は垂れ幕を掲げて揚陸訓練を応援

警察と共同で整斉と検問を実施

別海町自衛隊協力会設立30周年記念行事、盛大に実施

別海町自衛隊協力会（会長　水沼　猛）は、平成二十一年七月十二日（日）、ウェディングプラザ別海及び別海町中央公民館において別海町自衛隊協力会設立三十周年記念行事を盛大に挙行した。

内容は、第一部で「別海町自衛隊協力会設立三十周年記念式典及び祝賀会」、第二部で「第五音楽隊演奏会」を行なった。

式典は、多くの関係機関より来賓を招き、日本最大の矢臼別演習場を抱える別海駐屯地の各種行事等に対し、日頃から協力・支援されている協力会員約一〇〇名が出席し、会長による式辞及び感謝状贈呈、来賓祝辞で執り行われ、協力会の三十年間の歴史を振り返るとともに、尽力された方々に感謝し、別海駐屯地、矢臼別演習場、協力会の今後更なる発展を祝った。

祝賀会では、大草原太鼓（通称かあちゃん太鼓）で会場を賑わせ、別海駐屯地司令　松田一佐の万歳三唱で幕を閉じた。

第二部の演奏会では、地元住民約二五〇名が会場に訪れ、第五音楽隊長　松田一尉率いる第五音楽隊のユーモアあふれる進行と迫力ある演奏が行なわれ、会場は拍手喝采で賑わった。

また、演奏会場が高齢者福祉施設の近傍でもあり、普段なかなか演奏会に足を運べない方々も、「自衛隊さんありがとう、来年もお願いします。」と深々とお礼し、本行事は大盛況のうちに終了した。

式典・祝賀会食場

祝辞を述べる第5旅団　幕僚長深田1佐

大漁豊漁ぼやき船を熱唱・演奏する第5音楽隊

大草原響太鼓「通称：かあちゃん太鼓」